

「一回一回の一般質問には議員自らの懸命な思いが込められております。よってその思いをくみ取つて傍聴記を書いてください」。6月議会に登壇したある議員から寄せられたメールです。議員諸氏のそしした思いを何より大事にしていかなければ、肝に銘するものです。

伊藤秀昭 て質問した。
総務部長は「2008年2月の同会議への加盟以来、原爆ボスター展や市内サイレンを鳴らし直撃死没者追悼、並びに平和祈念の黙祷を行ってきました。時代の経過とともに、核兵器が招く悲劇に対する意識が薄れていく事が懸念される」とした。

中西氏は、豊橋には広島・長崎の被爆者がでつくる豊睦会があり、65人が所属し、平均年齢が80歳を超えていることなどから、「被爆者が生きてい

◎市制110周年
前田浩伸氏(自民)
は、来年豊橋市が市制110周年を迎えることから基本的な考え方を聞いた。
「記念事業を通じて

「これから地域をつくり、地域つなぎ、現在と未来をつなぐ人材育成、定着人口の基礎となるのはいつの時代も子どもや若者である」として、子ども若者のライフステージ支援について問題提起したのは星野輝氏（まつのひかり）。奨学金を活用した大学生などの地方定

地方創生のためにも分権の推進

星野氏は学校、支援団体、行政が連携し、若者に寄り添つた施策の展開を要請したが、終始、若者たちへの熱い思いがあふれていた。

的に対応する部署の設置が必要となり、「こども未来部」を設置したとした。斎藤氏は3年前に市内で起きた育児放棄虐待事件をもとに児童虐待や居所不明の乳幼児、児童生徒の状況、子どもの貧困、増員した主任児童委員などの具体的な施策について取り組みと課題を明らかにした。

◎産業振興
芳賀裕崇氏（まちフォーラム）は地域



芳賀氏は中小企業どうしで収益力の差が拡大しており、人材も十分確保されて興、サイエンスクリエイトの二面から聞いた。

地方分権の推進に関する
次議」が地方分権改
革の起点となつたと
して、これまでの取
り組みを総括し、今
後の地方分権の取り
組みが「地方創生」に
どのようにつながつ
ていくのかと、今後の
展望について聞いた。
総務部長は「地方
を再生していく基礎
自治体として、自己
コントロール可能な
権限と安定的な財源
を強化していく行政
力を高めることが重
要である」とした。
地方分権の取り組
みと地方再生を表裏
一体にまとめた大事
は質問だった。

豐橋市議會傍聽記

行政としての
行動のことを積極的
的に行いつつ、要請

られなかつた。
逆に前田氏から、
具体的な提案があつ

着促進策や就労活動支援とともに就労支援の拡大などについて

「も子育て支援法」の施行に伴う本格実施にあわせ、組織横断

活用で受けた産業振興への取り組みについて、中小企業振

ケットニーズなど
の課題があり、これ
らは同社が積極的

◎地方分権
鈴木義則氏（公明）は3年の「地方